特別史跡三内丸山遺跡
年　　報

—11—

平成19年度

青森県教育委員会

序

特別史跡三内丸山遺跡は、縄文時代における集落の全体像や生活、自然環境等とその変遷を具体的に解明することができる、日本を代表する縄文遺跡と評価され、平成12年11月に国の特別史跡に指定されました。また、平成15年５月には、三内丸山遺跡の出土品1,958点が国の重要文化財に指定されています。

青森県は、三内丸山遺跡を貴重な歴史的遺産として保存し、平成６年度から遺跡の整備と一般公開を行ってきました。見学者は、平成19年10月に延べ500万人を超え、多くの方々に三内丸山遺跡を見学していただきました。

平成18年度は、第30次発掘調査を行ったほか、最新情報展、企画展、縄文教室、三内丸山遺跡報告会などを実施して、三内丸山遺跡を中心とした縄文文化の魅力と重要性を広く発信してまいりました。

この年報は、平成18年度の三内丸山遺跡の整備・調査研究・活用事業の概要をまとめたものです。本書が三内丸山遺跡の理解や埋蔵文化財の保護と研究に寄与できれば幸いです。

刊行にあたり、三内丸山遺跡の保護・活用に御支援、御指導を賜りました皆様に対し深く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層の御尽力をお願い申し上げます。

平成20年３月

青森県教育委員会

教育長　田　村　充　治

第30次発掘調査 現地説明会

縄文教室「海の考古学」

口　　絵

目　　次

Ⅰ　平成18年度の事業について
1　整備状況
平成18年度の整備の内容 …… 1
2　調査研究
⑴　三内丸山遺跡調査 …… 1
⑵　関連遺跡調査 …… 4
⑶　遺跡環境調査等 …… 4
⑷　三内丸山遺跡発掘調査委員会 …… 4
⑸　特別研究推進事業 …… 5
3　普及啓発
⑴　シンポジウム等 …… 6
⑵　企画展及び最新情報展 …… 6
⑶　三内丸山縄文教室 …… 7
⑷　印刷物の発行 …… 9
⑸　資料貸し出し …… 10
⑹　講演会等 …… 10
⑺　縄文時遊館で開催されたイベント …… 11

Ⅱ　平成18年度の見学者動向について …… 12

Ⅲ　研究ノート
1　「三内丸山遺跡出土試料の^{14}C年代測定（2006年度）」
小林 謙一 ・ 坂本 稔 ・ 西本 豊弘（国立歴史民俗博物館）
松崎 浩之（東京大学大学院）…… 15
2　「三内丸山遺跡第６次調査地点北壁から採取した土壌サンプルの分析結果（中間報告）」
羽生 淳子（カリフォルニア大学 バークリー校）
佐藤 洋一郎（総合地球環境学研究所）…… 24

Ⅳ　特別研究推進事業成果概要報告
1　総合研究
「三内丸山遺跡北の谷出土植物遺体による縄文環境と植物利用の解析」
研究代表者　石川 隆二（弘前大学農学生命科学部）……40
2　自由課題研究
「残存デンプン分析からみた三内丸山遺跡の植物食－加工・利用技術の発展と展開－」
渋谷綾子（総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程）…… 47

Ⅴ　日誌抄録 …… 56

Ⅰ　平成18年度の事業について

① 整備状況

平成１８年度の整備の内容

①遺跡整備

○縄文植物園

整備方針

ａ．来園者の見学や学習効果を高め、縄文時代の人々が利用した代表的な植物を展示する。

ｂ．三内丸山遺跡を特徴づける資源植物について特徴ある展示を行い、人と自然のかかわりの歴史について興味関心を高める場とする。

ｃ．四季折々の植物が来園者に憩いの場を提供するとともに、植物の収穫や利用を通じた体験学習の場とする。

整備内容

ａ．草本類の植栽スペースを中心に縄文時代の人々が利用した植物を栽培し、栽培作業を植物教室として体験学習に利用した。

ｂ．ヤマウド、ワサビ、ギョウジャニンニク、アカザ、イヌビエなどの収穫作物を栽培し、一部収穫したものを体験学習の中で試食した。

ｃ．カラムシ、アカソなどの資源植物も植栽し収穫後加工し、使用した。

ｄ．ヒョウタンについては数種類を植栽し、いくつかの種類を混植して栽培。
ユウガオは収穫後体験学習内で調理し試食、その他のヒョウタン類は収穫後加工し体験学習で使用した。

②公開遺構の整備

平成７年度以降の公開に伴い、劣化が進んだ箇所については修復、補充の保存処理を行った。南盛土や埋設土器遺構では、カビやコケの発生を防止する処理を行った。

② 調査研究

(1) 三内丸山遺跡調査

遺跡の全体像、特に集落構造の変遷の解明や、今後の保存・活用、整備計画の策定や推進のための資料収集を目的とした学術調査を継続して行っている。

また、今後の長期的な整備・活用に備えて、関連する遺跡の調査、事例調査、積極的な情報発信のための事業を行った。

○　第３０次発掘調査

平成18年度は、遺跡北西端の沖館川に面する斜面中段の平坦地（Ａ区）と台地縁辺部（Ｂ区）の２地点で調査を行った。

・**調査期間**：平成18年５月22日～９月30日

・**調査面積**：366㎡（Ａ区144㎡、Ｂ区222㎡）

第30次調査区の位置

・**主な出土遺物**：縄文時代前期～中期の土器ダンボール18箱、石器６箱、土製品・石製品１箱未満、縄文時代中期後葉の木柱４本

● **Ａ区の成果**

・**調査の概要**：調査区では、平成７年以降７度の調査（第１・６・９・19・25・27・29次調査）を実施し、縄文時代前期末葉～中期末葉（約５千～４千年前）の大規模な遺物包含層、中期後葉の柱穴及びピット群、集落の最終段階である中期末葉の住居跡と屋外炉を検出している。第19次調査（平成12年度）には、柱穴内に残存していた２本の木柱の取り上げを行った。これらの木柱は年代測定の結果、それぞれ約4800年前・4700年前という結果が得られている。

Ａ区遺構配置図

今年度は遺跡北西部調査の最終年度であり、これまでに検出された柱穴及びピット群79基のうち直径80cm以上の大型柱穴を詳しく調べ、北西端斜面及び台地縁辺部における掘立柱建物跡の存在と構造を明らかにすることを目的とした。

・**掘立柱建物跡の確認**：調査の結果、大型柱穴で構成される掘立柱建物跡を確認した。建物跡は２基×３基の計６基の柱穴からなる１間×２間（3.15×6.3m）の構造と考えられ、長軸が等高線にほぼ平行する向きとなっている。このうち４基の

柱穴で重複または近接する柱穴が認められることから、軸をわずかにずらして建て替えが行われた可能性がある。構築された年代は、出土遺物と柱穴を掘り始めた面の観察から、縄文時代中期後葉頃と考えられる。

・**木柱の検出**：大型柱穴５基を精査したところ、４基（第13729・13771・13792・13793号ピット）から木柱の根元部分が出土した。直径は36～62㎝とバラツキがあり、残存状況にも差があるが、第13729・13771号柱穴出土木柱は比較的良好な状態であった。

取り上げ後の観察で、木柱の底面や側面には伐採後に石斧で調整した痕跡が残っていることがわかった。底面は平坦になるように加工されたものと、杭状のものの両者がある。側面は樹皮を剥がしており、底面近くに樹皮を断ち切った痕跡がより多くみられる。第13729号柱穴出土木柱では、節を落とした箇所もみられる。

第13729号ピット出土木柱

第13771号ピット出土木柱

● **Ｂ区の成果**

Ａ区と同様大型の柱穴を中心に調査した。11基を掘り下げて検討した結果、梁行２基×桁行３基の６基の柱穴の他に、棟持柱と思われる柱穴２基を持つ、計８基の柱穴からなる掘立柱建物跡１棟を確認した。規模は約2.45～2.8（梁行方向）×5.95（桁行き方向）、棟持柱間の長さ約8.4mであった。柱穴のうちの１基で中期末葉の土器片が堆積土の上層から出土したことから、構築された年代は中期末葉かそれより古い段階と考えられる。

Ｂ区で検出された掘立柱建物跡

(2) 関連遺跡調査

新たな発掘調査成果が得られている県内外の縄文遺跡を調査し、最新の情報を得ることにより、三内丸山遺跡の学術的解明を進めていくとともに、遺跡間のネットワークの形成に向けた交流を行うものである。平成18年度は発掘調査（第30次調査）で出土した木柱根の加工痕跡を比較検討するため、関東地方、北陸地方で実施した。

①群馬県みなかみ町郷土歴史資料館

調査対象とした矢瀬遺跡は縄文時代後期から晩期の集落跡で、遺跡中央附近に掘られた多数の柱穴から木柱根が50点以上出土している。樹種は大半がクリであった。

これらの資料の表面観察を行った結果、丸材と、木材を縦方向に裂いた形の半截材があり、いずれも側面の面取りが縦方向でややランダムに、底面が同心円状に石斧で加工された痕跡が残っており、加工方法が当遺跡出土木柱根とほぼ同様である事を確認した。

②　富山県小矢部市桜町JOMONパーク出土品展示室・桜町遺跡出土木製品管理センター

小矢部市教育委員会文化スポーツ課の中井真夕主事より桜町遺跡及び出土木柱根の概要について、また有機質遺物の保存処理について説明を受けた。調査対象とした桜町遺跡は、谷の中を流れる川跡から縄文時代中期末から後期初頭の遺物や動植物遺存体が多量に出土している。なかでも高床建物の柱材と考えられる、ほぞ穴やエツリアナと呼ばれる加工が施された木柱の発見は注目された。建築材の樹種は大半がクリであった。

実見した木柱根はいずれも石斧による加工痕が観察された。側面に幅が共通する直線的な面が形成されるものもあり、当遺跡出土の木柱根と類似したものであった。

(3)　遺跡環境調査等

①遺跡環境調査

遺跡の長期的保護に向けて、その具体的対応を検討するための基礎的な資料を得るため、外気温、覆屋の室温、湿度等について定期的にデータ収集を行った。

②露出展示遺構劣化状況調査

覆屋内で露出展示を行っている遺構について、公開から10年が経過したことから、18年度・19年度の２箇年で各遺構の劣化状況等を調査し、保存状態の確認、公開に伴う課題の把握を行うことにした。18年度はこれまでのデータのまとめと、北盛土と土坑墓の実測図作成を行った。

(4)　三内丸山遺跡発掘調査委員会

三内丸山遺跡に関する学術的な解明や継続的な発掘調査計画検討のため、専門家による委員会を平成９年度から設置している。委員の任期は２年であり、年３回会議を開催している。委員の構成は次のとおりである。

・委員長

村越 潔（弘前大学名誉教授）

・副委員長

小山 修三（吹田市立博物館長）

・委　員

岡村 道雄（奈良文化財研究所企画調整部長）
小林 達雄（國學院大学教授）
市川 金丸（前青森県考古学会長）
高島 成侑（前八戸工業大学教授）
大塚 和義（大阪学院大学教授）
西本 豊弘（国立歴史民俗博物館教授）
鈴木 三男（東北大学植物園長）
辻 誠一郎（東京大学教授）

・顧　問

江坂 輝彌（慶應義塾大学名誉教授）
坪井 清足（財団法人元興寺文化財研究所長）

○第１回発掘調査委員会

開催期日：平成18年6月30日

開催場所：三内丸山遺跡展示室内研修室
（以下同じ）

検討内容：今年度の発掘調査について
発掘調査の現地指導
特別研究推進事業について

○第２回（平成18年9月14日）

検討内容：今年度の発掘調査について
発掘調査の現地指導
来年度の発掘調査について
来年度の特別研究推進事業について

○第３回（平成19年3月15日）

検討内容：今年度の発掘調査成果について
来年度の発掘調査について
特別研究推進事業について
来年度の発掘調査委員会について

発掘調査現場で指導に当たる委員

(5)　特別研究推進事業

遺跡の全体像解明と縄文文化の解明を進めるため、平成10年度から実施している。平成18年度は、総合的・学際的研究を展開し、より一層遺跡の全体像の解明と縄文文化に関する研究を進めるため、関連する研究を公募し、研究を委託した。

総合研究は、三内丸山遺跡の全体像解明につながる総合的、学際的な共同研究である。自由課題研究は、「円筒土器文化」または「三内丸山遺跡」について、各種遺物、各種遺構、集落構造などを取り扱った個人またはグループによる研究である。

①総合研究

『三内丸山遺跡北の谷出土植物遺体による縄文環境と植物利用の解析』

研究代表者　石川 隆二
（弘前大学農学生命科学部）

②自由課題研究

『残存デンプン分析からみた三内丸山遺跡の植物食－加工・利用技術の発展と展開－』

渋谷綾子
（総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程）

③ 普及啓発

(1)　シンポジウム等

○ 三内丸山遺跡報告会

日時：平成19年３月17日（土）13:00～15:15

会場：縄文時遊館

主催：青森県教育委員会

内容：

＊第１部　調査報告

『平成１８年度発掘調査成果報告』

浅田　智晴（青森県教育庁文化財保護課）

＊第２部　特別研究成果報告

特別研究報告その１【総合研究】

『三内丸山遺跡北の谷出土植物遺体による縄文環境と植物利用の解析』

石川　隆二（弘前大学農学生命科学部）

特別研究報告その２【自由課題研究】

『残存デンプン分析からみた三内丸山遺跡の植物食－加工・利用技術の発展と展開』

渋谷　綾子（総合研究大学院大学）

(2)　企画展及び最新情報展

三内丸山遺跡への理解を深めてもらうため、調査及び研究で明らかとなった最新情報を展示する企画展及び最新情報展を開催した。

①「青森県の縄文史跡」

期間：平成18年４月29日（土）～８月27日（日）

内容：

県内に所在する特別史跡（１遺跡）と史跡（６遺跡）を紹介する展示を行った。

写真パネルを多用して各遺跡の内容や現状をビジュアル的に紹介するとともに、小牧野遺跡出土の特徴的な遺物の展示や各遺跡の位置や概要を記したプリント配布を行い、来館者が遺跡へ直接足を運んでみたくなるような展示とした。

②「5300点の土器－特別収蔵庫の見学会－」

期間：平成18年７月24日（月）～８月20日（日）

内容：

夏休み期間中は、一日あたり入場者数が1,000人以上に達することから、この機会に三内丸山遺跡のダイナミックさに触れてもらえるよう、普段は公開していない完形土器収蔵庫を公開し、収蔵されている約5300点の土器を一斉に見学できる行事を企画した。

見学者には、「参加記念証」をプレゼントした。

③「発掘どうぐ展」

期間：平成18年７月21日（金）～10月29日（日）

内容：

発掘調査現場の公開と連動させるかたちで、発掘調査で実際に使われている多種多様な発掘道具類を数多く展示した。それらの量と種類に驚いてもらうとともに、使い方や平凡な日用品の導入例、現場の中で編み出された奇抜なアイデアなどにも気づかせ、発掘調査への興味・関心が一層高まるような展示とした。導入部では発掘作業員のマネキンが出迎える構成とし、発掘調査を身近に感じてもらえるよう配慮した。

④「近野遺跡の人物線刻土器」

期間：平成18年９月15日（金）～10月５日（木）

内容：

埋蔵文化財調査センターの協力により、三内丸山遺跡に隣接する近野遺跡から出土した「人物線刻石冠」を展示した。３体の人物が刻まれたこの石冠は、マスコミ等に大きく取り上げられたことから、幅1800㎜のガラスケースの中央に展示し、その希少性をより高めるよう配慮した。

⑤「あおもり縄文まほろば展ー縄文遺跡群の世界文化遺産登録を目指してー」（開催地：大阪府）

期間：平成19年２月11日（日）～18日（日）

内容：

三内丸山遺跡、小牧野遺跡、是川遺跡、長七谷地貝塚、亀ヶ岡遺跡、田小屋野貝塚、二ッ森貝塚などの県内縄文時代遺跡から出土した資料約300点を大阪歴史博物館６階特別展示室で展示した。

また、「青森県の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録への取組みについても紹介した。

⑥「北西部の謎」（最新情報展）

期間：平成19年２月24日（土）～６月24日（日）

内容：

平成18年度の発掘調査（第30次調査）の成果を遺物と写真パネルで紹介する展示を行った。

遺跡北西部に位置するＡ区とＢ区の２地点で検出された掘立柱建物跡やＡ区で検出された消失住居跡、3.5メートル厚の遺物包含層土層、４本の木柱の調査～取り上げまでの過程など、豊富な調査データを時系列で紹介した。

「北西部の謎」の展示状況

(3) 三内丸山縄文教室

三内丸山遺跡では、発掘調査から得られた成果をもとに、縄文時代の生活の一端を体験してもらう縄文教室を、平成８年度から実施している。

平成18年度は６月から12月までの土・日曜日に、１回コースを３回、２回コースを３回、４回コースを１回の計13回行った。できるだけ当時と同じ材料を使い、内容によっては専門家に講師を依頼し、より詳しい知識を得られるようにした。

【１回コース】

①「石器作り」

実施日：平成18年７月15日（土）

内　容：黒曜石などで石器を製作する。

講　師：文化財保護課職員

参加者：29名

縄文教室「石器作り」

②「レプリカ作り」

実施日：平成18年11月25日（土）

内　容：土偶等の複製品を製作する。

講　師：堀江　武史氏（府中工房）

参加者：13名

③「編布作り」

実施日：平成18年12月16日（土）

内　容：撚ったカラムシで布を作る。

講　師：尾関　清子氏

参加者：19名

【２回コース】

①「土偶作り１」

実施日：平成18年８月26日（土）

内　容：遺跡周辺で採取した粘土で土偶を作る。

講　師：文化財保護課職員

参加者：22名

②「土偶作り２」

実施日：平成18年10月14日（土）

内　容：１で作った土偶を野焼きする。

講　師：文化財保護課職員

参加者：12名

③「海の考古学１」

実施日：平成18年９月30日（土）

内　容：シカの角で釣針を作る。

講　師：市川　金丸氏（前青森県考古学会長）

参加者：31名

縄文教室「海の考古学１」

④「海の考古学２」

実施日：平成18年10月１日（日）

内　容：釣竿を作り、魚を釣る。

講　師：市川　金丸氏（前青森県考古学会長）

参加者：31名

⑤「編みカゴ作り１」

実施日：平成18年10月28日（土）

内　容：遺跡内にある蔓などを採取する。

講　師：谷川　栄子氏（日本女子大櫻楓家庭工芸研究所）

参加者：18名

⑥「編みカゴ作り２」

実施日：平成18年10月29日（日）

内　容：前日採取した蔓でカゴを編む。

講　師：谷川　栄子氏

参加者：20名

【４回コース】

①「土器作り１」

実施日：平成18年６月10日（土）

内　容：遺跡周辺の粘土で生地を、麻縄で縄文原体を作る。

講　師：誉田　実氏（陸奥美窯）

参加者：29名

②「土器作り２」

実施日：平成18年７月８日（土）

内　容：１の粘土で土器を作る。

講　師：誉田　実氏

参加者：36名

縄文教室「土器作り２」

③「土器作り３」

実施日：平成18年８月12日（土）

内　容：２で製作した土器を野焼きする。

講　師：文化財保護課職員

参加者：25名

④「土器作り４」

実施日：平成18年９月９日（土）

内　容：火を起こし、土器で煮炊きする。

講　師：文化財保護課職員

参加者：33名

(4)　印刷物の発行

①「年報10」

A4　53ページ　500部発行

平成17年度の事業、見学者の動向、研究ノート、特別研究推進事業成果報告、日誌抄録

②「青森県埋蔵文化財調査報告書 第443集 三内丸山遺跡31 －第18・21・24次調査報告書－」

A4　151ページ　400部発行

平成12～14年度に実施した第18・21・24次調査とテニスコート地区の試掘調査の報告

③「青森県埋蔵文化財調査報告書 第444集 三内丸山遺跡32 －旧野球場建設予定地発掘調査報告書８－」

A4　135ページ　400部発行

平成4～6年度に調査した旧野球場建設予定地のうち、掘立柱建物跡の調査の報告

④「三内丸山通信」

A3 両面　3,000部発行

三内丸山遺跡の調査、イベント、トピックスなどの最新情報を掲載したニュースレター

【第40号(平成18年7月19日発行)】

・発掘調査始まる
・青森県立美術館オープン
　三内丸山遺跡重要文化財を展示
・企画展開催中
　青森県の縄文史跡、発掘どうぐ展
・縄文教室
・遺跡見学者450万人達成

【第41号(平成19年1月26日発行)】

・第30次調査の成果
・「青森の縄文遺跡群」を世界遺産へ
・あおもり「縄文まほろば展」in大阪開催のお知らせ
・三内丸山冬まつり
・最新情報展「第30次調査の成果」
・お答えします　さんまるのギモン

【第42号(平成19年3月30日発行)】

・三内丸山遺跡を探求する～平成18年度遺跡報告会、特別研究推進事業報告会
・企画展
・「あおもり縄文まほろば展」in大阪開催
・お答えします　さんまるのギモン

三内丸山通信

⑤リーフレット（一般）

A3　見開き　両面

遺跡見学者を対象とした、公開中の遺構の解説を中心としたリーフレット

(5) 資料貸し出し

今年度も出土遺物及びレプリカ、写真等の貸し出しを行った。出土遺物の主な貸出は以下の通りである。この他に写真等の貸出が111件あったが、詳細は割愛する。

①中泊町博物館常設展示資料
平成18年４月１日～19年３月31日
土器２点

②縄文時遊館常設展示
平成18年４月１日～19年３月31日
土器等　98点

③青森朝日放送
「新婚さんいらっしゃい」
平成18年６月15日
円筒土器レプリカ　１点

④青森県立郷土館常設展示資料
平成18年６月23日～19年３月31日
土器他　52点

⑤奥松島縄文村歴史資料館
「縄文物産展－縄文時代の人と物の交流－」
平成18年７月28日～11月７日
ヒスイ大珠等　28点

⑥青森県立美術館
「縄文と現代」
平成18年10月1日～12月18日
土偶他　23点

⑦北海道開拓記念館
「北の縄文－美の世界－」
平成18年10月17日～12月12日
ヒスイ大珠他　２点

⑧東大阪市埋蔵文化財センター
「発掘ふれあい館で遊ぼう」
復元縄文服他　３点

(6) 講演会等

三内丸山遺跡に対する理解や関心を深めてもらうため、主催者の依頼に応じた各種講演や学校における総合学習での講義などを行った。18年度に行われた講演等は、次のとおりである。

６月８日
「縄文文化の扉を開く」
県立学校校長会
場所：南部屋

７月16日
「日本文化と農耕の起源～三内丸山遺跡にみる縄文農耕の可能性～」
弘前大学公開シンポジウム　パネリスト
場所：弘前大学

８月３日
「郷土の文化を学ぶ」
青森市教育委員会 初任者研修（小・中学校）
教職一般研修講座
場所：青森県総合学校教育センター

８月７日
「遺跡調査と私」
県立弘前南高等学校
場所：弘前市文化センター

８月９日～10日
「遺跡とサイエンス」
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト
青森県男女共同参画センター
場所：三内丸山遺跡展示室内研修室

８月31日
「考古学で青森再発見」
長寿社会振興センター
場所：南部屋

10月12日
「特別史跡三内丸山遺跡の発掘調査と保存・活用」
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会北海道・東北ブロック研修会
場所：青森県埋蔵文化財調査センター

10月13日
「特別史跡三内丸山遺跡」
全国私立学校連合会
場所：県立美術館

11月４日～５日
「遺跡とサイエンス」
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト
青森県男女共同参画センター
場所：三内丸山遺跡展示室内研修室

11月24日
「特別史跡三内丸山遺跡」
全国高等学校文化連盟東北ブロック
場所：縄文時遊館

12月１日
「青森県の縄文遺跡群の世界文化遺産登録を目指して」
「青森県の縄文遺跡群」の世界遺産をめざす会
場所：つがる市松の館

12月23日
「青森県の縄文遺跡群の魅力と価値」
「青森県の縄文遺跡群」の世界遺産をめざす会
場所：青森グランドホテル

(7) 縄文時遊館で開催されたイベント

ビジターセンターである縄文時遊館では、三内丸山遺跡を開かれた遺跡として活用すると同時に、遺跡に対してより親しんでもらえるよう、様々なイベントを実施している。

４月
・クイズラリー（４月28日～５月6日）

６月
・花嵐桜組新作演舞お披露目会（６月４日）

７月
・三内丸山遺跡見学者450万人達成記念セレモニー（７月７日）

８月
・三内丸山昆虫教室（８月18日）

９月
・三内丸山縄文植物観察ウォーキング(9月17日)
・黒石よされニューバージョン披露（９月17日）
・縄文収穫祭（９月24日）

１１月
・縄文秋祭り（開館４周年記念）(11月25・26日)
・絵画コンクール作品展示

２月
・縄文冬まつり（２月３～４日）

Ⅱ 平成18年度の見学者動向について

(1) 遺跡見学者数及び展示室入館者数

平成18年度の遺跡見学者数は370,447人、うち展示室の入館者数は146,513人である。展示室の入館者数は平成９年度をピークに減少傾向にあるが、今年度は県立美術館開館もあり前年比106.5%と増加となった。

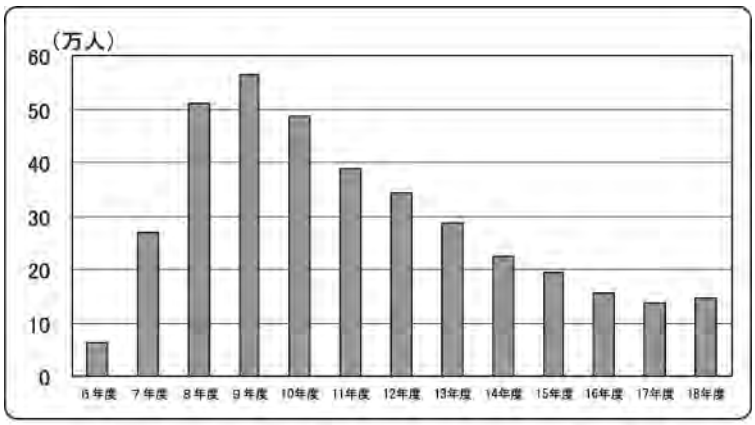
月ごとの遺跡見学者数は多い順から８月、５月、９月となっている。これはゴールデンウィーク、ねぶた祭り、県立美術館シャガール展による観光客の増加が要因であると考えられる。また、冬季の見学者数については12月～１月にかけて落ち込んでいるが、２月は「三内丸山縄文冬まつり」の効果などから増となっている。

展示室の入館者数は、遺跡見学者数の約４割である。４～10月までの割合は高いが、11月以降は２割程度となっている。

展示室の入館者数の割合を月別で見ると５月が最も多く、次いで６、８月である。５、６月は修学旅行や校外学習などの学習利用が多いためであると推測される。８月は個人見学者の割合が高く、一般団体見学者に比べ時間に余裕があるため、展示室にも入館していると推測される。また、展示室入館者の割合が低いのは２月、１月、12月の順となっており、冬期間であるため、天候によっては縄文時遊館の見学のみで済ませる人も多いためと考えられる。

年　度	展示室入館者数	前年比(%)
平成６年度	61,807	－
７年度	269,597	436.2
８年度	510,337	189.3
９年度	565,376	110.8
10年度	485,917	85.9
11年度	387,021	79.6
12年度	343,050	88.6
13年度	287,182	83.7
14年度	224,582	78.2
15年度	194,019	86.4
16年度	156,515	80.7
17年度	137,543	87.9
18年度	146,513	106.5
計	3,769,459	

表１　平成18年度までの展示室入館者数

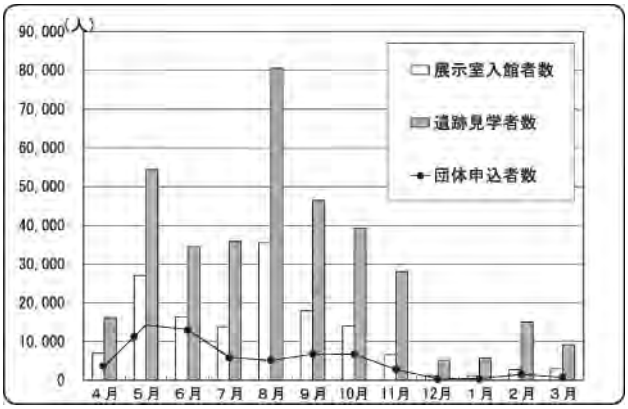


グラフ１　平成18年度までの展示室入館者数

月	展示室入館者数	遺跡見学者数	団体申込者数	展示室の１日平均利用者数	展示室の利用割合(%)
４月	6,985	16,181	3,622	232.8	43.2
５月	27,079	54,366	14,235	873.5	49.8
６月	16,335	34,491	13,156	544.5	47.4
７月	13,855	35,832	5,926	446.9	38.7
８月	35,504	80,598	5,099	1,145.3	44.1
９月	17,946	46,478	6,763	598.2	38.6
10月	14,070	39,284	6,712	453.9	35.8
11月	6,632	28,080	2,817	221.1	23.6
12月	1,156	5,189	391	38.5	22.3
１月	1,239	5,778	471	42.7	21.4
２月	2,750	15,001	1,479	98.2	18.3
３月	2,962	9,169	819	95.5	32.3
計	146,513	370,447	61,490	404.7	39.6

※12月31日～１月２日は展示室休館

表２　平成18年度見学者数



グラフ２　平成18年度見学者数

(2) 団体見学者(註)の傾向

団体の見学者数は61,490人で、見学者全体に占める割合は16.6%である。このうち県内の利用は26%で、小学校の利用が多い、また、県外からの利用は74%で、一般団体と中学校の利用が多い。

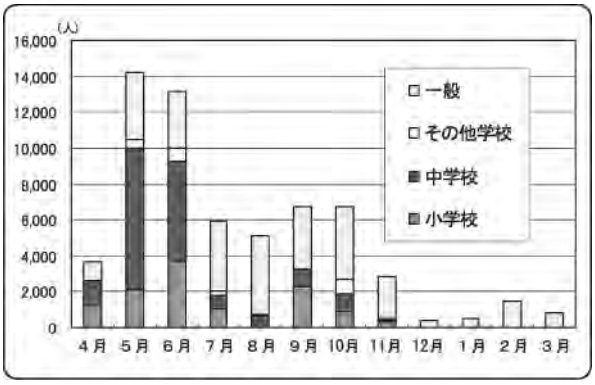
団体見学者が最も多いのは５、６月で、修学旅行などの学校見学者が７割以上を占める。９月がこれに次ぐが、学校関係者は少なく一般見学者が多い。８月は遺跡全体の見学者が最も多いが、団体見学者の割合は少ない。これは、ねぶた期間中は見学者が集中するため、定時ガイドを増やすことで対応していることから、カウントされない団体が多いためである。また、冬季の団体見学者は少なく、学校団体の見学はほとんどない。

修学旅行での利用は、中学校が圧倒的に多い、地域別では北海道が多く、修学旅行生全体の約８割を占め、その他の地域の利用割合は、前年度と比較すると近畿からが増加している。

また、県内の学校団体の利用では、小学校に比べて中学校の利用は少ない。

月	小学校		中学校		その他学校		一般		総計	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
4月	20	1,183	22	1,420	0	0	41	1,019	83	3,622
5月	41	2,132	89	7,887	5	423	128	3,793	263	14,235
6月	70	3,691	41	5,570	6	724	132	3,171	249	13,156
7月	20	1,035	7	758	1	200	153	3,933	181	5,926
8月	4	199	6	428	2	113	132	4,359	144	5,099
9月	33	2,287	18	933	2	54	119	3,489	172	6,763
10月	17	868	7	1,020	12	754	161	4,070	197	6,712
11月	10	321	3	116	1	37	91	2,343	105	2,817
12月	1	29	0	0	0	0	24	362	25	391
1月	0	0	0	0	0	0	35	471	35	471
2月	0	0	0	0	0	0	66	1,479	66	1,479
3月	0	0	0	0	0	0	45	819	45	819
計	216	11,745	193	18,132	29	2,305	1,127	29,308	1,565	61,490

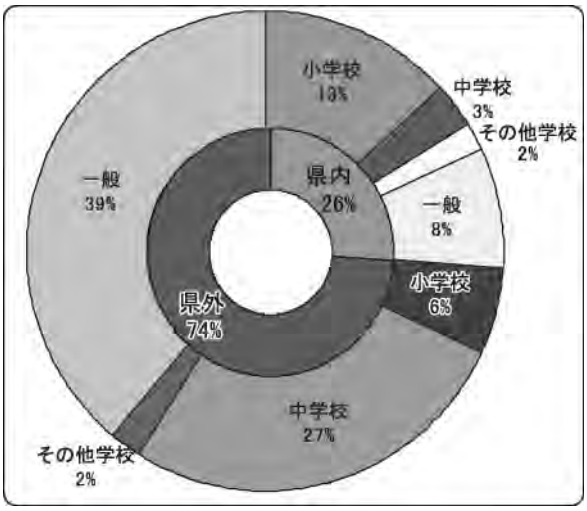
表３　平成18年度団体見学者数



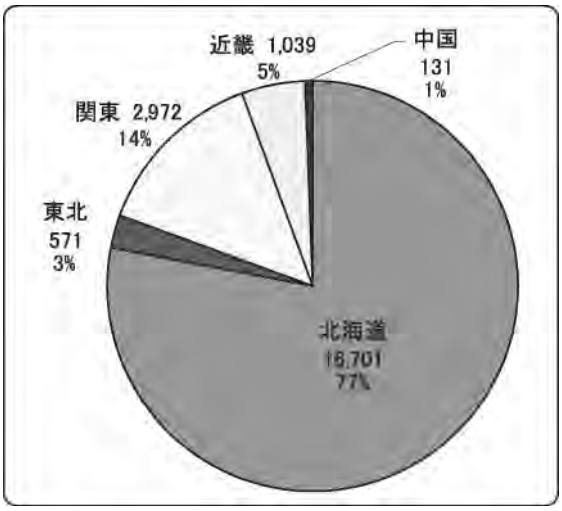
グラフ３　平成18年度団体見学者数

県内外別	小学校		中学校		その他学校		一般		総計	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
県内	145	8,017	24	1,555	17	1,196	179	5,093	365	15,861
県外	71	3,728	169	16,577	12	1,109	948	24,215	1,200	45,629
計	216	11,745	193	18,132	29	2,305	1,127	29,308	1,565	61,490

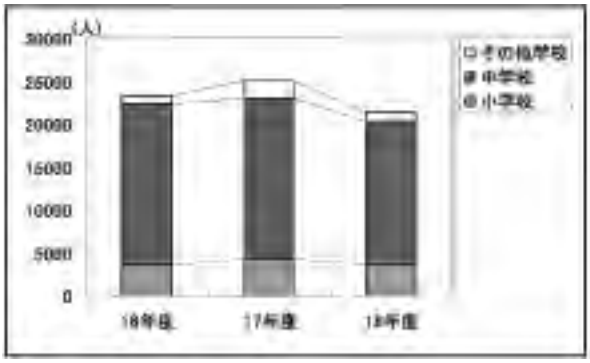
表４　平成１８年度団体見学者の地域別見学者数



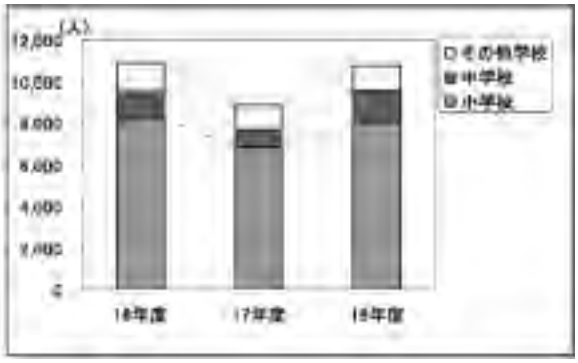
グラフ４　平成18年度団体見学者数の割合



グラフ５　平成18年度修学旅行生の地域別割合



グラフ６　県外学校の見学者数



グラフ７　県内学校の見学者数

表５　県外学校の見学者数

年度	小学校		中学校		その他学校		総計		前年比(%)	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
16年度	65	3, 687	193	18, 651	10	1, 044	268	23, 382	90. 8	92. 5
17年度	77	4, 295	181	18, 765	23	1, 975	281	25, 035	105. 0	107. 1
18年度	71	3, 728	169	16, 577	12	1, 109	252	21, 414	89. 7	85. 6

表６　県内学校の見学者数

年度	小学校		中学校		その他学校		総計		前年比(%)	
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数	団体数	人数	団体数	人数
16年度	146	8,195	14	1,315	13	1,370	173	10,880	121.0	141.5
17年度	142	6,859	15	800	18	1,209	175	8,868	101.0	81.5
18年度	145	8,017	24	1,555	17	1,196	186	10,768	106.3	121.4

平成18年度の学校団体の見学者数は、県外で21, 414人、県内で10, 768人となっている。

県外の学校の見学者数は、昨年度と比較すると小学校、中学校、その他いずれも減少している。

また、県内学校については昨年度と比較すると小学校・中学校で学校数・人数共に増加している。

註）カウント方法、カウント場所は次のとおりである。

・遺跡見学者数：縄文時遊館入口でセンサーによりカウント

・展示室入館者数：展示室入口で解説員が手動でカウント

・団体見学者数：事前に見学申込のあった団体見学者で三内丸山応援隊がカウント